

2010年、史上6校目の甲子園春夏連覇の偉業と同時に、県勢初の夏の甲子園優勝を達成した我喜屋優監督（興南高校）の著書に『逆境を生き抜く力』がある。同書は10年前に出版されたが、今でも色あせることはなく、むしろ、春夏甲子園大会中止の今だからこそ、読むものに勇気を与える。一部を引用する。

興南高校野球部が、甲子園優勝という**大きな花**を咲かせたことは事実だ。
しかし、その花を咲かせているのは枝であり、枝を支えているのは、幹である
そしてすべてを支えているのは、**目に見えない「根っこ」**なのだ。

「根っこ」は普段、土の中に隠れて見えない。

つまり、「甲子園優勝」が「花」ならば、

「**普段の生活態度や練習**」が「根っこ」なのだ。

どんなに美しい花も、いつかかならず散るときがくる。

そして散った花は、元には戻らない。

けれども、**根っこをちゃんと育てていれば**、きっとまた**美しい花が咲く**。

花が咲いたことに有頂天になって、根っこに水をやるのを忘れてしまえば、

いつまでたっても次の花が咲くことはない。

いつまでも、花を愛でているわけにはいかないのだ。

花の命は短い。

力強い根っこや幹、枝葉を育てる過程こそ、人生そのものだ。

どんなにうれしいときでも、「花は散る」と考えよう。

また、**どんなにつらく悲しいときでも、「春は来る」と信じよう。**

たとえ**甲子園で優勝**できたとしても、それは**一瞬の輝き**でしかない。

それよりも**部活動を通して何を学んだか**、

学んだことを次のステージへどう活かせるかのほうが、よほど**大事**なのだ。

3年間で花が咲かなくても、これから長く続く**人生の花**をいつか咲かせればいい。

野球部は、そのための**根っこづくり**をするための場なのだから。

野球の試合は9回で終わるが、**人生のスコアボードは一生続く**。

おまえたちはその長い長いスコアボードで、ずっと戦っていかなければならない。

そして、いつまでも喜んでいる暇はないし、落ち込んでいる暇もない。

レギュラーになることや、甲子園に行くことだけが人生の目標ではない。

それよりも、人生のスコアボードで**確実に点を重ねて**、

人生の勝利者になってほしいと思う。

